

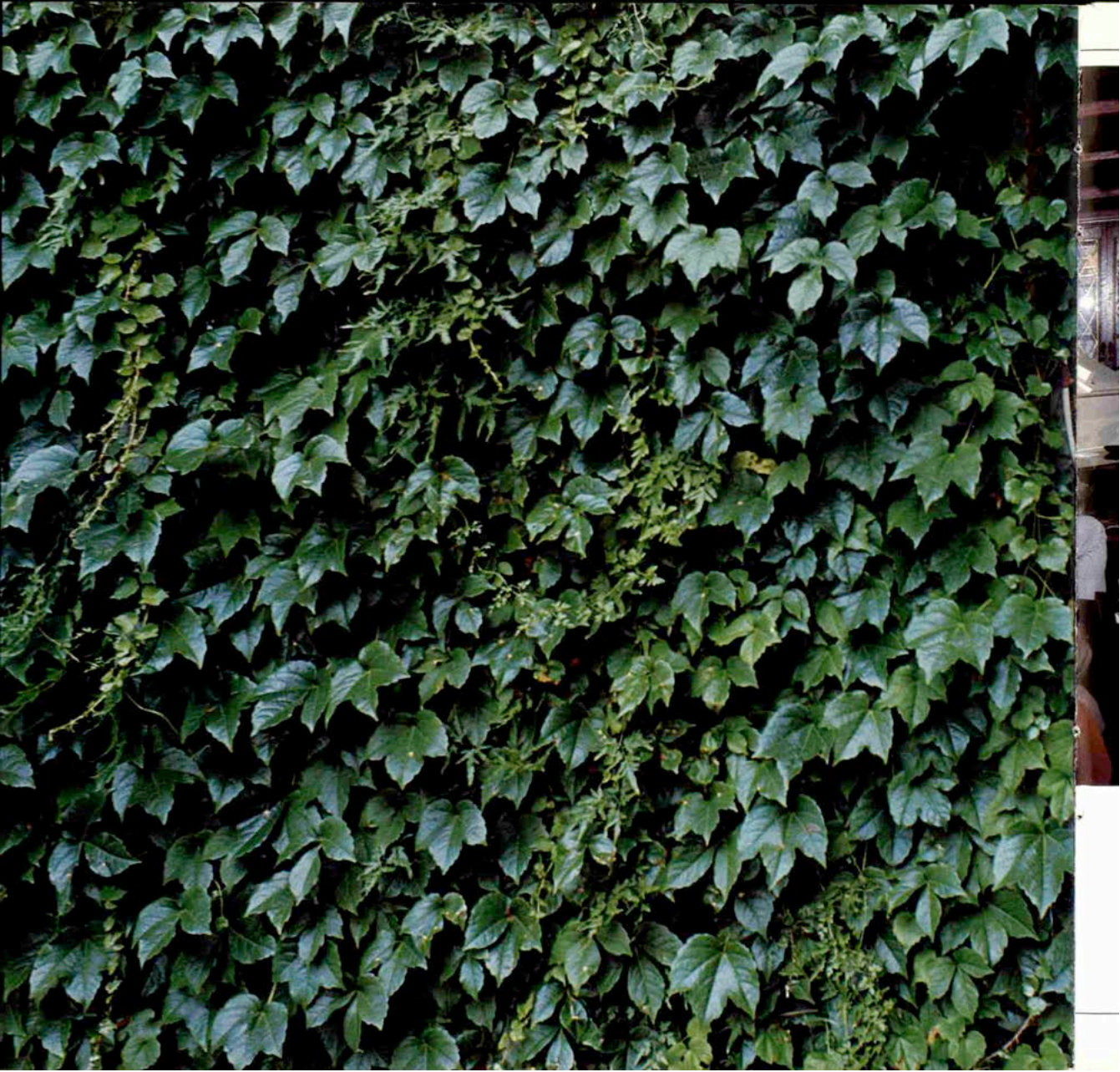
神戸のディテール

Detail of KOBE 〈27〉

石阪 春生

写真／杉尾友士郎







明るいファッションライフをつくるスギヤ本店が30周年を迎えました。

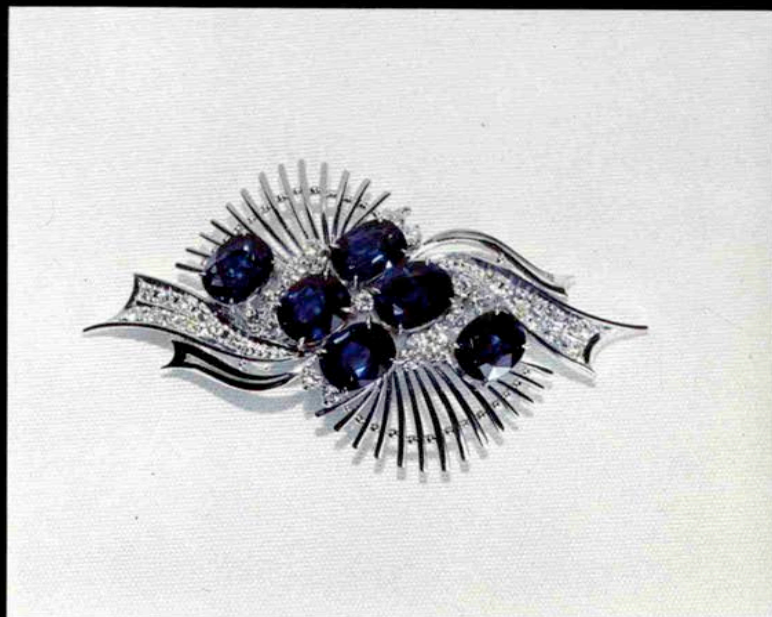
婦人服飾とおしゃれ小物

スギヤ

本店／トアロード／078(331)3436 六甲店／阪急六甲ファミリーストア内／078(871)2733 東京店／池袋バルコ地下1階／03(987)0567
 梅田店／阪急三番街地下1階／06(372)4877 宝塚店／阪急宝塚南口駅構内／0797(71)5033 阪急神戸店／阪急百貨店1階／078(321)3521
 心斎橋店／心斎橋バルコ3階／06(245)1316 芦屋川店／阪急芦屋川ファミリーストア内／0797(31)8193 宇都宮店／西武百貨店1階／0286(35)0111

有限会社 スギヤ事務センター／神戸市葺合区琴緒町5丁目3 ☎ (241)2291・2

TAKATA JEWEL



シリーズII 《この1品》

ホワイトゴールドブルーサファイア帯止め



トア・ロード

タカタ宝石

〒650

神戸市生田区北長狭通2-161-1

電話 078・391・4105



MURATA FASHION COORDINATE *Revillon* FOURRURES

秋は優雅な雰囲気
が似合います。

毛皮とレザー、長毛と短毛など異質素材の組み合わせが昨年から流行しています。毛皮とレザーの併用は感覚的に変化を出せる点が、長毛と短毛の併用は衿に長毛をトリシングして使える点が好まれているようです。またコート丈はヤング、ミッシィ向けの中級毛皮はファッションの影響を敏感に受け変化していますが、ミセスを中心とした高級毛皮は従来と変わりありません。ヨーロッパをはじめ世界の人々に愛用されております。レビオンとの技術提携により、ムラタがシックなこの秋を演出いたします。

写真の品はホワイトミンクロングコート（銀狐衿つき）Revillon Paris ￥2,100,000

モデル／舟木加代
PHOTO／米田定蔵



真珠・貴金属
毛皮・婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン
☎神戸 (078) 391-3886

8月 目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

表紙／小磯良平
セカンドカバー／COLLECTION へ8／中西 勝

神戸っ子 75／三浦徳子／杉山武敏
ある集い／日本UFO研究会
コウベスナツ
神戸っ子ギャラリー／環境造型Q
へ山口牧生・増田正和・小林陸一郎
神戸のデイトール へ27／石阪春生／カメラ・杉尾友士郎
わたしの意見／土井芳子

随想三題／宮地 孝／加藤林美／稲垣よし子
ある集いその足あと／日本UFO研究会
神戸っ子談話室／唐招提寺障壁画展での東山魁夷
ある現代美術家の非芸術的なレポート へ9／河口龍夫
運載随想 へ2／神戸の女は日本一／華房良輔
キャンベーン／フアッション都市神戸を考える へ1
座談会 山本敏雄／藤田敬一郎／田中国夫／妹尾美智子
経済ポケットジャーナル

地域と企業／石阪春生／稲岡必三
第14回日本SF大会／SHINCON特集

大会宣言／筒井康隆
随想／眉村 卓
座談会／筒井康隆＋ネオ・ヌルメンパー

フアッションレポート
神戸百景／カメラ・小山 保
今月の催し物ご案内

神戸の話題から ①「歳華集」出版記念会／竹内 実
②山田無文・中内 功出版記念会／鎌田糸平

動物園飼育日記 へ10／亀井 一成
技術ジャーナル 神戸／中水道／諸岡博雄

神戸のアーバンデザイン・モダンリビング へ30／水谷順介
神戸を福祉の町に へ20／里親をさがして14年／橋本 明
プロフェッサーの研究室／岡田 淳
フアッションライフ イン ロンドン へ5／柴田啓嗣

神戸の集いから
心に残るOLD KOBE へ11／元プラ札賀／あおしげる
ニューヨークからの便り へ24／日本人の車はクツ／竹田洋太郎

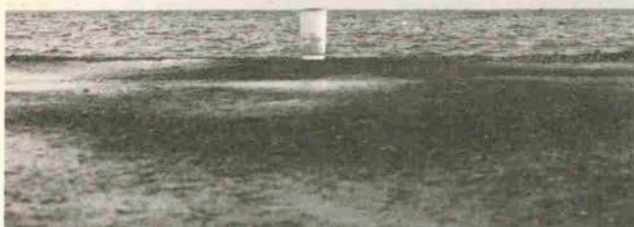
淀長立見席 へ43／SF映画と人間サマ／淀川長治
女性百景 へ37／女ドラキュラ／H・ジュニア／え・浅野俊一
びっぴん

神戸百景会だより
ボケッジョナール

連載小説 まだ遅くない へ23／葉月一郎／え・小西保文
愛読者サロン

ボエムドコウベ／山口三智／カメラ・藤原保之
海船港／クーパー／みいたなキャブテン・マルコポーロ号

カメラ／米田定蔵／藤原保之／立山 彰



＊無題＊ PHOTO (728×1030mm) + (728×1030mm) 1973

TATSUO KAWAGUCHI

●東アフリカ・サファリへの旅●豪華客船の旅ロッテルダム号ツアー



●申込み先 **ドッドウェル トラベル サービス**

大阪営業所 大阪市西区靱1丁目102辰巳ビル1階 TEL: 06 (443) 8 7 2 2
東京営業所 東京都千代田区大手町2丁目6番2号日本ビル11 TEL: 03 (241) 8020 ~ 4

野生アフリカとの出会い

行 先: ケニア・タンザニア
期 間: 昭和50年12月26日～
昭和51年1月11日<17日間>

総 費 用: ¥650,000.-

募集人員: 12名(サファリ・バス2台に分乗)

エスコート: 2名

福岡康年(アフリカ・スペシャリスト)

TEL: 078(691)5386

島村 均(ドッドウェル)

申込締切日: 昭和50年10月31日(金曜日)

(但し定員12名に達し次第、締切らせて頂きます)

申込方法: 上記月日までに申込金5万円を添えて上記にお申込みください。

ロッテルダム号香港・バンコックツアー

行 先: 大阪ーバンコックー香港ー神戸
期 間: 昭和51年3月8日(月)～
3月20日(土)<13日間>

総 費 用: 約¥650,000.-

(部屋により少し変わります)

募集人員: 16名

ロッテルダム: ファーストクラス バス付
(2人1室)

飛行機: ツーリストクラス

ホテル: デラックスホテル

(2人1室: 希望により1人部屋可)

食 事: 旅程内の全食事

申込金: ¥100,000.-

申込締切日: 昭和50年12月26日(金)

★わたしの意見

婦人の善意と エネルギーを 社会へ

土井 芳子

△神戸市婦人団体協議会々々長▽



国際婦人年にあたりまして、私達の協議会が二十五周年を迎えましたことは、何か大きな示唆があるような気さえ致します。

私ごとになりますが、夫が戦死しまして、五人の子供を抱え両親を抱えて生活致します中で法律が男女平等でないことを知りました。苦しくても悲しくても自分ひとりで考え、行動しなければならぬのです。そんな時に自分自身が、ほんとうに何も知らないと感じました。

折もよく、神戸市社会教育課からの呼びかけがありまして、友達と一緒に何かを学びたい、つかみたいという気持ちから地域婦人会を結成して毎月必ず出席致しました。それは昭和二十一年七月のことだったので。

国際婦人年にあたり全世界の各地でいろんな会が開かれております。婦人の地位は平均して低く、平等ではないのです。各地に戦争があり、老人、婦人、子供はいつも悲しい思いをさせられております。世界の平和を願って、共に文化的で幸せな暮らしができるよう、発展への努力が必要なのです。

昭和五十年、私は次の申し合せを致しました。

一、平和な社会を育てるために、家庭に地域社会に「和」の心をひろげましょう。

二、より豊かに、より楽しくすごすために、毎日のくらしを見直してみしましょう。

三、仲間づくりの輪をひろげましょう。
そうして事業計画と致しましては、

一、善意の会とボランティア活動の組織育成。

二、「婦人の地位は本当に向上しただろうか」を考える運動の推進。

三、自主的な健康管理の推進。

四、年代別の学習と活動の展開。

五、組織の整備と指導者の育成。

最後に二十五周年にあたり、私達は「婦人の善意とエネルギーを社会に還元しよう」ということで努力することになっております。

ビロードの味



アイスクリーム

“ビロードの味”とたたえられる
きめこまやかな フランス風、
手づくりのアイスクリーム。
さんちか茶寮や本店喫茶室では
特製のサンドアイスクリームを、
ご進物・ご家庭には容器入りを...



神戸 月堂

美術 古剣 骨董 書画

十六間小星筋甲
¥450,000



鑑定 買入

研 白鞘 拵 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 古骨

美 剣

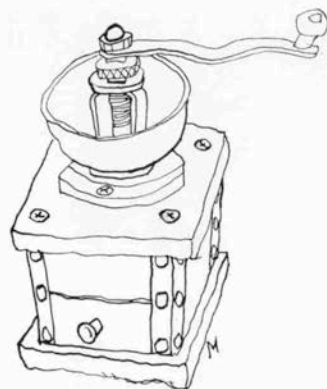
術 董

元所美術

〒650

TEL078-351-0081

題三想隨



カッタ／宮地孝（二紀会）

私は歩道橋が
大きい

宮地 孝
〈洋画家〉



昭和十五年の八月、東京から郷里の高知に帰る途中、はからずも私は、そのまま神戸に住みついてしまった。そして私には、もはや神戸は、離れられないまでに愛する神戸^{とこ}となった。

それから三十年、私は一度も遠くへ出かけたことがない。たまたま京都や大阪へは出かけることがあるが、その帰り、くるまが芦屋を過ぎて、東灘にはいると、ああも

う帰ってきたなア、という、ホッとした安堵感をおぼえる。さらにくるまが三宮にくと、まるで母親の胸に抱かれた幼ない息子のよう、に、しっとりした安らぎと、よろこびを感じる。少々キザっぽい、これは私の実感である。ことほど左様に、私には最愛の地神戸なのである。

思い出してみると、私が神戸にきた昭和十五年という年は、太平洋の風雲が、ようやく荒くなろうとする頃で、東京ではもう何とはなくきびしい気配が感ぜられていた。

雨に濡れたトーアロードの歩道のヒビわれから、小さい葉を覗かせていた雑草の可憐な風情が、たまらなく美しく、大切なものを見つけたよろこびとともに、その緑

の色のあざやかな印象は今もなおあえかな思い出として私の身内に泌みついている。

その時分のトーアロードの店舗のなかには、二三段のダンダンをあがって店にはいるように作られたものもあつた。店の中はうす暗く、床板が敷いてあつて、歩くとギシギシ音をたてた。私は古い神戸が大好きだ。

やがて神戸も、次第に戦時色に色濃く塗りこめられ、露路の奥から、チャッと姿を覗かせたテン足の女も、いつとはなしに姿を消し段々の店も空家が多くなっていった。

そしてついに十六年十二月、大東亜戦争に突入した。

十八年には元町筋の鈴蘭灯もとりつぶされ、兵隊がどやどやと歩きまわる街になった。学童疎開がはじまり、私の家の隣組のほとんどの家族は、それぞれの田舎へ帰って行った。

戦争が終わると神戸は国際的近代港都として急速に復興した。

家々の屋根の上を、高速道路がつっぱしり、四角なビルの窓きわを路が横暴に疾走する。

今や神戸は自動車の氾濫で、まさに交通地獄の様相を示している。それが故に、歩道橋が、いとも無遠慮に街の空間を引っかきまわっている。

私は古の神戸が大変すきだ。そして今の神戸も大変すきだ——。

だが私は歩道橋が大きらいた。

東京—神戸

ホットライン

加藤林美

（abcサウンズ・レポーター）

ラジオ関東「土曜深夜 RF テレサ」AM1時～AM5時は音楽と旅とファッション、そして食物の4本柱を中心に展開する、深夜放送には異色の情報生ワイド・ショーです。

この番組は、今年の七月で放送開始以来3年目を迎えますが、内容の低俗化が叫ばれている今日の「深夜放送」にはめずらしく、毎週毎週放送の回を重ねるごとに、わずかながらではありますが聴取者の数を増しています。最近の深夜帯の番組にはまず異例なことです。というのは、つい先日（5月31日）の深夜放送分がちょうど聴取率調査に当たり、その結果は、われわれスタッフが予想していた数字をはるかに越えたものが、速報として出されました。特に年齢層は他の番組をぐーんと引き離れた22歳～25歳位までの、しかも女性層が圧倒的割合をしめています。さすがのわれわれスタッフ一同はビックリするやら鼻血を出すやら大変な騒ぎです。しかしながら、

われわれの聴取者年齢層を上げる努力は、3年目にしてやっと報いられたような気がします。ところで、この「RF テレサ」がなぜそんなに女性層に人気があるのでしょうか。

前に述べた4本柱の中で特に旅とファッションを強く前面に押し出し、当番組のパーソナリティー山崎士郎が自慢の、どで彼女らをその世界に引き込み、かつまたあらゆる情報を提供しているからです。中でも最近聴取者の間で人気があるのが、東京と神戸・ホット・ラインというコーナーです。パーソナリティー山崎士郎と神戸の可愛い4人のキャスター、兵頭さん、中桐さん、白井さん、福田さんらが、電話を使い神戸とスタジオを直接結び、国際都市といわれている現在の神戸の素顔を、面白おかしく、そして当地の言葉をフルに使ってあらゆる角度から報告



神戸っ娘の4人のキャスター達

してきてくれます。

彼女ら4人は、現在甲南女子大学の3年生在席中で、しかも4人ともに放送部員。われわれスタッフは去る5月17日、18日聴取者参加の神戸まつりのツアーに同行し、その際、彼女ら4人のキャスターにお会いしました。われわれの番組イメージから、当初この4人のキャスターが内容を把握して、こなしていけるかということが大変気がかりでした。ところが、われわれの予想していた以上に彼女らは熱心に毎週リポート・勉強を積み重ね、かなり内容の濃いものを送ってきてくれます。最近では、そんな彼女らに、番組とは関係なくテレフォン・デートの申し込みがくるようになり、スタッフも大あわて。この東京と神戸・ホットラインが放送された当初、数は少ないですがいくつかの投書がありました。それは東京および関東エリアの番組がなぜ神戸の紹介をしているのか？ というような内容のものでした。それは、われわれスタッフはこのように考えています。ラジオはテレビと違い、どこでも聞けるといふ利点があります。そしてさきに述べたように、われわれは他の深夜放送とまったく異なり、情報というものを売り物にしています。旅を一つ取り上げ、それを情報と一体化した時、観光

地の紹介はもちろんのこと、皆の町の紹介もこれに属するわけだ。その最初の試みが、この東京・神戸・神戸・ラインなのです。われわれスタッフは、この東京・神戸・ラインをお聞きの際の聴取者の方々が、当番組を一つ参考とし、かつ神戸へ足を向ける際の一つの出発点としてご利用願うことを思い、また、ツアーのようなものをも組む計画をもちながら、送り手の側、そして受け手の側の相互のメリットを深く考え、さらに前進・前進・また前進の息込みで制作を続けてまいります。

トランジット イン フランクフルト

稲垣よし子 (デザイナー)

飛行機で海外旅行された方なら一度や二度体験する、自分ではど



うしようもない空白がある。給油乗務員の交代、あるいはやむを得ない事情で目的地外の空港に立ち寄ることを余儀なくされる、あの手持ちぶさたな時間がそれである。空港内の限られたスペースでただ時の過ぎゆくのをじっとまっている。自分の意志ではどうにもならない、ちっほけな自分の存在を確かめる、そんな空間をトランジットという。今、私は神戸を遠く離れて、ただ一人フランクフルトにいる。話す言葉も、目に入ってくる文字もわからない私には、仕事のためとはいえ、口では言い表わせない不安と寂しさが交錯している。

しかしここには、ヨーロッパの毛皮という毛皮を一堂に集めて、国際見本市がある。世界の女性を魅了する華麗さと、何としてでも自分のものにしたい欲望を喚起させる不思議な魔力を秘めた毛皮——パリのアピアン、エルメス、ロンドンのシンプソン、デンマークのクリステンセン、ACバンゲ——etc.

毛皮の魅力が騒がれているのも希少価値もさることながら、永遠のマテリアルというにふさわしい気品が、世の女性をと

らえて離さないのだ。幾多の逸品を手にしながらかの心を打つものは、完成された一点一点のもつ真価と、それにもまして職人の、情熱を傾けた針のあとの一つひとつだった。人生の大半をオートクチュールに、世界の大男と対等にわたりあつてきた一人のバイヤーとしては、全く情けない限りだが、そこは長年培った商品を見る目と手が、文字どおり頼りになる助手であつたことはいまでもない。

街全体がこの見本市のために湧き返っている。広い会場は五日間の会期中、歩き続けても見尽くせないほどのコレクション。五百点のセクションに分けられ、各々には数百点の作品が肩を並べている。コート、ケープ、ストール、ブルゾン、帽子、いずれもこの日のためにクリエイティブされた作品ばかり。美しいフォルムとみごとにシールドは、技術の素晴らしさもさることながら、毛皮というマテリアル自身もつ優雅、神秘を漂わせている。SAGAミンク、スツカラ、ロシアンセーブルなどの豊かな素材を贅沢に使った作品には、着る宝石としかいえないようなもの。毛皮と高級プレタポルテを志しての渡欧であつたが、創造者の心に触れた今、私自身の長い足跡とわが人生のトランジットを、ふと感じた次第です。

□ある集いその足あと

日本UFO研究会

平田 留三

（日本UFO研究会会長）

宇宙のロマンともいえるUFO（未確認飛行物体）に関心をもったのは、昭和二十九年だったと思うが、某日の朝日新聞に五段抜きで「空飛ぶ円盤は実在する」と、ダウディング英国空軍大将の論説が報道されてからである。

航空機ファンの私は、地球の科学よりはるかに進歩した星があれば、当然そのような性能の飛行物体を有するだろうと確信した。当時は文献もきわめて少なく、入手するのに苦労したものであった。ときたま各新聞にUFOの目撃記事が掲載されて貴重な資料となったが、同好の友が何となく集まって土曜の午後は時間を忘れてUFO談に熱中して楽しんでた。大



1950年米国オレゴン州マックミン・ビルの農場で、パウル・トレント（農業主）が撮影したUFO。この写真は米国政府がコロラド大学に研究調査させたうちの1枚で、トリック写真でないことが証明された。



1952年、ペルーのマドル・デ・デオスのジャングル上空を飛行する葉巻型UFO。

正後期から昭和一ケタ生れが大半で、職業も公務員・教員・会社員から医者・僧職と割合にカタイ職業が多数で、そのうちに私たちのグループが新聞などで紹介されると、仲間に入れてくれという人が全国各地より現われ、四十一年に「日本UFO研究会」を発足させた。世界各国の二十数余の研究會とネットワークして、会誌と情報の交換をなし、現在四百人の会員となった。神戸近辺だけでも数十人は入会しているが、会員全員の年齢層は、恍惚の人からヤングと広く、約百人は女性である。

UFOが世界の注目をあびたのは、一九四七年六月二十四日の朝、快晴の米国ワシントン州レイニア山上空を家用機で飛んでいた実業家ケネス・アーノルド氏が、九個の円盤型UFOを目撃して以来であるが、実はもっと昔、人類が空を飛ぶ機械をもたぬ時代から、UFOは各地で多数の人々に目撃されているのである。その確証は地球の各地に存在している

し、旧約聖書や日本の古典書物にもそれを裏づける記事が多くある。宏大無限の宇宙の中で、一つの星の集団が銀河系宇宙であり、その片隅に私たちの地球が小さく光っている。世界最大のパロマ天文台の望遠鏡では約四十億の星が見られる由だが、これとて銀河系宇宙の一部分であるという。

太陽は約十億もあるというから、それをめぐる惑星の数も考えると、地球よりかなりの先進星と開発途上星が実在すると考えるのが常識的であると思う。呪文を唱えて円盤や宇宙人を呼ぶなどは私は信じていない。そんなことをしなくても、美しい大空を仰ぎ、星空を眺めて新鮮な空気を呼吸するだけでも健康的だし、運が良ければ通りがかりのUFOを見るチャンスもあることである。

葉巻型UFOと円盤型と大別して二種類だが、いろんな変型のもあって種類は豊富である。いくつかの星から飛来するだろうからには、地球の航空機や自動車と同様に、それは当然と思っている。攻撃性の強い宇宙人もあるだろうから油断はできないが、平和愛好主義の宇宙人もいるだろう。地球とてご同様のので、これまた当然と考えている。彼等の星がどんなものか一日も早く知りたいのは私たちだけではない筈である。



新しいと
ゆうことは
いつまでも
古くならない
ことです。



店舗づくりのプロフェッショナル

信頼される



(株)神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目1

PHONE 078(251)3525(代)

NIKKEN MEMORY SERIES<7> バロンさんブラザ店
木とレンガと鉄を素材に英国風喫茶&
レストランというテーマで神戸日建
さんにお願いしました。

最高の素材と抜群のセンスで、吹き
抜けや2階のデザイン等は小野原社長
さんの得意とするところじゃないですか。

最近は喫茶店やレストランは随分、
色んなお店ができていますが「誰もが
抵抗なく気軽に楽しんでもいただけるよ
うに」というねらいが良く生かされて
います。



黒田 社長

□神戸っ子談話室／唐招提寺障壁画展の東山魁夷画伯を訪ねて

神戸派は明るい市民性が持ち味でしうか

山と海、それは日本の風景の最も大きな要素である。古い昔、中国の人々の抱いた蓬萊山のイメージは、遙か東方の海上に浮ぶ島国日本への憧憬の心にも繋るものではなかっただろうか。

唐招提寺御影堂の障壁画の揮毛を受けておられた東山画伯が第一期として「山雲」「濤声」を完成されました。唐招提寺障壁画展の会場（神戸大丸）でハイカラ神戸っ子であった東山画伯に語っていただきました。

東山魁夷画伯



私は横浜生れですが、三つの時に神戸に来て、それから入江小学校、神戸二中と神戸で育ったんです。

神戸に来て一週間たないうちに迷子になった。まず三宮に一家がおちついたんですが家の前を通ったチンドン屋に着いて行ってしまったんですよ。引越したのかの時、酒屋さんの店員が来るでしょ。その人が「穴門の交番で迷子になっている子供が、おたくの子供さんらしい」と母に知らせてくれたんですが、母は知らないもんだから「いえ、うちの子は外で遊んでますよ」といって外へ出たら、いないのでビックリして走って来たんです。それまでは巡査と話したのかしてたのに母の顔を見たときにワッと泣きだしたそうです。お守り袋に住所と名前を書いたものを入れてたんですがまだ横浜のものだったので「こんな小さな子が横浜から迷子になって来た」と巡査も驚いたそうです。それが神戸での第一歩ですね。

神戸ってところは同窓会が好きなおとこでないでしょうか。中学の50周年が舞子ビラであり、そのあくる日みんな唐招提寺へ行きました。ちょうど障壁画の公開の日で長老が大変喜ばれて皆さんを接待くださいました。先生がまだお二人お元気でした。幼稚園の同窓会も、この前、ドイツの古都の展覧会をやった時に開かれたんだけど。私は大変に神経質な子でまず幼稚園に行って集団生活なんてとうていできない性質の子供だったんです。保母さんが大変綺麗な人でその人にほめられるのがうれいもんでお遊戯や絵なんか描いたりして自然になじんでいったんですね。その人が80いくつなんですがもう同窓会の間じゅう泣き通し、ハンカチを目にあてどおし。なんか人なつかしくなる街といえますか、住みいい街ですね、神戸は。

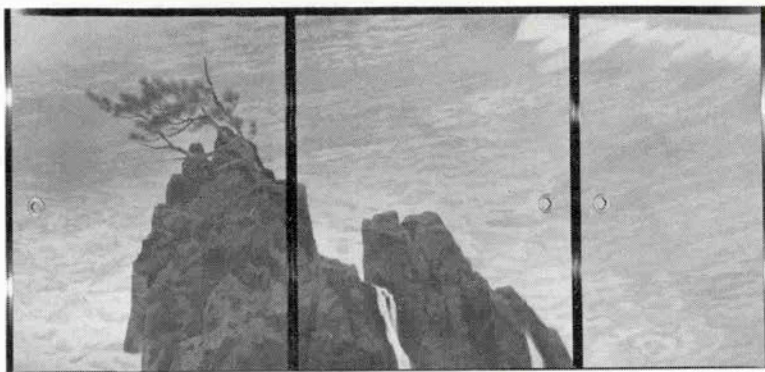
私は入江小学校五年くらいの時に画家になりたいと思い、先生に個人的に絵を教えてくださいとお願ひしたら「子供の時に絵を教えると変な癖になる。美術学校

へ入りなさい。そのために、中学へ入る勉強をしなさい」と言われ、中学に入ったらなんとなく絵描きになるのがいやになった。たしか二年の時くらいに希望という題の作文を書かされたので、私は「綺麗な水が軒下に流れている小さい町で本屋さんになり、綺麗なお嫁さんをもらって、母たちを大切に暮らしたい」と書いたら消極的すぎると叱られました。今と違い軍事教練の盛んな時代でしたから、中学生らしくもって大きな望みを持てとね。

国語の先生に「絵描きになるのか」と聞かれ、「いや、ならない」「なぜ、ならないのか」「母が悲しむだろうから」「ふーん」それっきり先生は話を進めなかったんですが、ある日、国文法のプリントが配られ脇に妙なことが書いてある。どうやら落書きを消し忘れたらしいんだが『絵にこころざさんとする子あり 母ありとてたじろぐ 神戸のこの前途はやすらかなるかな わがことのためにくらす』私は自分のことではないかと思ひ直接言われるよりも心に響いたけど、それでも絵描きになるんじゃないかと思ってた。そのうちまたなりたくなって、結局なってしまうたんですね。

神戸という所は、海と山に恵まれたところ。日本の自然というものが自然に感じられる町なんです。私が美術を志すのに大きな影響を与えてくれました。神戸の氣質は市民的健康性というか明るさがある。先天的に私の場合は反対のものを持っているから、いつもそれがバランスをとる役目をしてくれる。立脚点があつて、もうひとつの方へ自分が落ちこんでいくのを救ってくれる。芸術にもいろいろあります。市民性から離れた立場というものもあるわけですが、そこから離れ暴走していくことは疑問ですね。奈良の古い寺の襖絵、床の間の絵が今の人にアピールするものがあるのか？ と思いますが、しかし若い人が大勢見に来ている。私の中に明る市民性を持つという性質があるから、それは神戸という街でしか

も最も下町的な所で育ったということがあるから、隣のおばさんが美大4年の時に帝選に初入選したら家へ飛び込んで来て「ボンは偉い」といって両親の前で泣きだした、そういう氣質が染み込んでいるからでしょうね。芸術というものを非人間的に捉えることには反感をもっています。小磯良平さんにもそれがいえるところがありますね。神戸の特質ではないだろうか。故坂本勝果立近代美術館長が「神戸派」ということばを使っていましたね。芸術には尊厳性は絶対に無視するものではないんですけれども、しかし芸術家である前に人間であるということの方が大事だと思う。その違いでしょうね。それですか



唐招提寺御影堂宸殿の間「清声」部分

ら芸術至上主義から見れば生ぬるい仕事をしていると思われるかもしれない。市民的健康性からみればずれているかもしれない。そこに私の立場があるんです。

魁夷という号は美術学校を出た時につけたんです。本名は新吉という大変庶民的な名があるんですが、やさしい環境を愛する中で育

つてきたけど芸術の世界ではやさしさだけではいけない、しっかりした、むしろやさしいことの反対の厳しさが必要だと思い魁夷としたんです。東山^{トヤマ}・魁夷。平衡感覚でしょうか。ですから学校を出て留学先をドイツに選んだのも魁夷という号に関係あるでしょうね。いつでも神戸が心にあってそこで神戸的でない厳しささそういうものに対するバランスがとれた。「ドイツへ行く」といったら皆が止めましたね。私とは反対のものを持っているから行きなかった。神戸に住んでたおかげで船に乗れば気楽に外国へ行けるという感覚がありましたね。

日本人の心を考えてみますに、まず京都、それから奈良大和とだんだんさかのぼっていく。日本人的、今日われわれの心のもっている根源的な所ですね、大和は。それからみると外に一つの故郷を持つ日本の成り立ちも見えてくる。たとえば唐招提寺、あの寺が出来た時は大変エキゾチックな寺だった。外国の様式でそっくりそのまま建立されたものだから。異質なものを受け入れてそれに興味をもって取り入れる。それでも日本というものがなくならない。島国だから溜るのか、外に素通らないんです。日本的に純化していく。それがわれわれ民族の歴史と自然なんでしょうね。神戸というところは外国との関係も深く、また源平の遺跡などが多いように日本的な関係も深い所。山の手のハイカラさやそれでいて外国かぶれしない面、二つの性格は日本人型を上手にもっている。私の場合も西洋文化に対する興味、日本文化に対する執着の二つある。考えてみると二つあることが日本人なんですね。両極がありそれでなお日本的なものを失なわない、面白いですね。神戸で育ってドイツで学び、日本画家としての存在をもっている私も不思議な気がしますけど、自然な気もします。日本人のありかたなのではないでしょうか。唐招提寺は今では最も日本的なお寺ですね。もし私が遠くの山の中で育ってたらそれほどピンと自分にこないと思います。東西の文化の



上段の間「山雲」部分

接点のようなこの神戸は私なりの日本人感、日本の美を考える上で大きな役目を果たしてくれていますね。

昔はいい音楽家がよく神戸で演奏しましたね。ジンパリストやアンナパブロワ。私たちの年代は似ているかもしれないですね。モダンではなくハ

イカラなんです。連続大活劇を見たあと、家に帰って皆で役を分けて演るんです。兄なんかいい役やるんですが、私は家の中で見てるだけ。傑作なのは、珍しく父が映画につれていってくれた。もちろん新開地です。「乃木大将の少年時代」という映画だったんですが、隣の映画館では連続大活劇をやっていて私はそっちの方が見たかった。中で座布団に座って見ると隣の上半分くらいが窓から見える。だんだん窓の方に寄って行って見たけど上半分だけだからよくわからなかった。父は、と見るとイネムリしている（笑）一度淀川長治さんとお話したいですね。

唐招提寺の障壁画にしても、新宮殿の壁画にしても、大きい仕事は依頼されないといけない。依頼をうけて受けるか否かを自分で決めるのだが、いつでも自分が選択し

ていく意志的立場はそこだけです。一方は近代的な現代の宮殿、一方は歴史をもつ古寺。二つの場合は性格が違うものです。もしこれがいっついで短い期間に両方の依頼があったんだったらお断りしていると思います。ちょうど京都を主題にした連作を、と思っていた時に新宮殿のお話がありました。大和を描こうと思っていた時に唐招提寺のお話。その間に七年の歳月が流れているんです。

自分の心境が自然に変わる。求めている方向が、京都—新宮殿 大和—唐招提寺と象徴の意味で一致したんですね。自分で意志して起こったことではないんです。風景でもこない風景見たいと思っても見れないものです。でも行き会えるということもある。出会いを大切にすることしかできないですね。日本の過去の伝統だけでは芸術は生まれません。民族的なものから離れるのも断絶を生むだけです。両方の求めている接点の上で自然に、意志的に考えているとつかめなくなる、自然に自分が歩いていくんです。それがその道のひらけていく方法だと思います。自然に反対の方向へ行く場合もあるけどね。自分を大切にしますれども我というものから離れないと自分の本当の姿が見えませんがね。

時が過ぎ去って行くのでは無く、私達が過ぎ去って行くのである。時は永劫に不変不動であり私達を含めて、この世の全てのものが変化して流動していく。永久に変らぬものは死であり、移ろい変わるものこそ生であるとは、日頃の私の感懐である。しかし、いまの場合、なんと日々は早く過ぎ去っていくことか……。障壁画を制作なさっている時に書かれた「唐招提寺への道」の中の一節である。三年半をかけて完成されたこれらの障壁画は、第一期としてであり、ある期間を置いて厨子の内扉や他の部屋の襖、杉戸なども揮毫なさるといふ。

「描くことは祈ることである。」それが東山画伯の日常の心構えであるそうだが、この唐招提寺の仕事の場合は一層、敬虔な気持ちで筆をとられたそうです。